*　　*　　*　　*

北アメリカに分布するイヌナズナ属の2種に基づいて新属 *Cusickiella* を設立した。新属は外形的にもまた多くの形質でもイヌナズナ属に類似するが，特に重要な点は幼根に対する子葉のつき方が異なることである。

○若き日の原 寛博士の日記（金井弘夫 編） Hiroo KANAI (ed.): Botanical activities of the late Dr. Hiroshi Hara from his diaries in 1927, 1928 and 1930

原寛博士の学生時代の日記が残されている。現在みつかっているのは大正12，14年，昭和2，3，5年と断片的であるが，博士の几帳面な性格を反映して，当用日記に1〜2行ではあるが，毎日ほとんど欠かさず記されている。昭和に入ってからは，植物研究に生活の方向づけが決まってきたことがうかがわれ，ほとんど連日「勉強した」，「標本を整理した」という言葉でしめくくられている。記事は事実の記述に限定され，意見や感想はみられず，「じつに嬉しかった」，「痛快であった」という記述がたまにあるのみである。前者は自己の植物の新発見について用いられ，後者は学校の成績で一番をとったときに用いられている。大学入学以前に，すでに大人を相手に植物の指導をしていたことがわかる。博士は当時植物同好会には所属しておらず，川村清一博士の自宅で教示をうける以外は独力でその水準に達していたことは，若くして志をたてて研究に集中した勉学の成果を思わせる。採集行はきわめて機動的で，交通機関を有効に利用して，今日と同様なスピードで精力的に移動しているのが目についた。また年末にはその年の所感と採集行の一覧表および自己の重要な発見植物の表が作られている。大学時代の日高山脈調査の記録などは，残念ながらみつかっていない。

植物研究以外に博士は学生時代にはいろいろなゲームやスポーツを楽しみ，いずれも好成績を収めていたことが随所に記されている。スポーツとしてはテニスが得意だったほか，ピンポンもこなしている。相撲興行の結果は必ず日記に記されており，毎日観戦にでかけていることも多い。ゲームでは麻雀は得意とするところで，そのほか花札，将棋，五目並べ，トランプなどもしばしば登場する。

以下は日記から植物研究に関するトピック的な部分を抜粋したものである。公表を許された原一二美夫人に感謝の意を表する。

昭和2年（1927）16才　4月7日　明日より中等科第5学年に入ることになった。（注：東京高等師範学校附属中学校より学習院転校。）

9月6日　今年およびその以前に採集したる腊葉の整理を行ふ。

9月13日　今日で略腊葉整理ができ，新たにこしらへた腊葉450枚に達した。（続く）